運転する前に取扱説明書をよく読んで安全に注意してください。

HITACHI

取扱説明書

ZAXIS

135USK－3LCN

2段ハイリフトフロント仕様機

日立建機株式会社
応用開発センタ

構　造

各部の名称

1- ブーム

2- アーム

3- ブームシリンダ（ホースラプチャバルブ付）

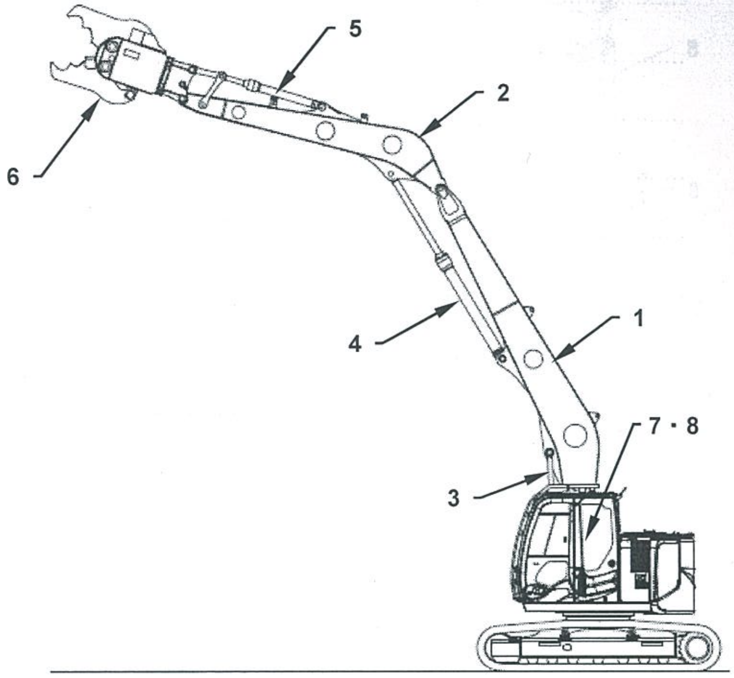
4- アームシリンダ

5- 破砕機チルトシリンダ

6- 破砕機

7- ブーム角度警報リミットスイッチ

8- ブーム角度計



運転室

配 置

1- 左作業レバー/ホーンスイッチ

2- 左走行ペダル

3- 左走行レバー

4- 右走行レバー

5- 右走行ペダル

6- アタッチメントペダル

7- マルチモニタ

8- 右作業レバー/パワーディギングスイッチ

9- スイッチパネル

10- キースイッチ

11- エアコンデショナスイッチ

12- FM･AM ラジオ

13- 運転席

14- ドアロック解除レバー

15- ロックレバー

16- ヒューズボックス

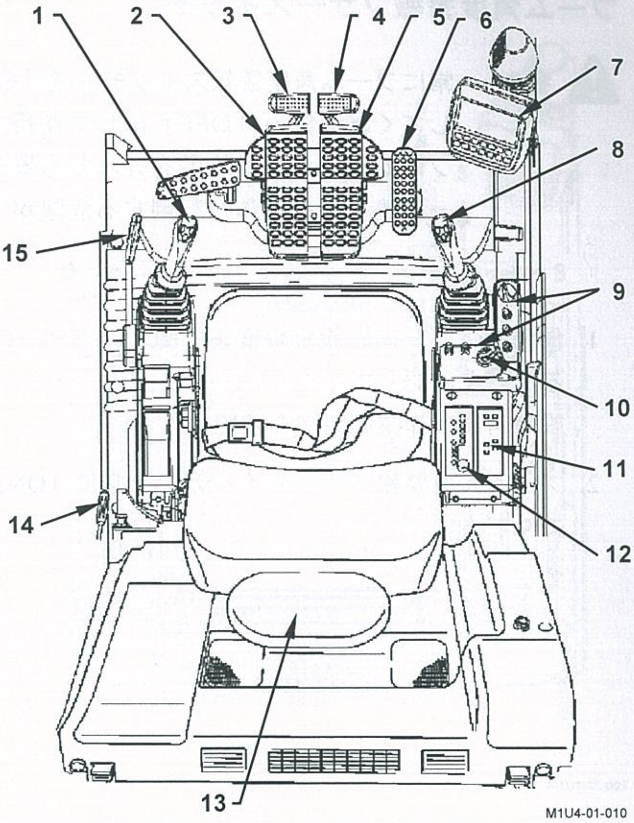
17- スイッチパネル(オプション用)

18- シガーライタ

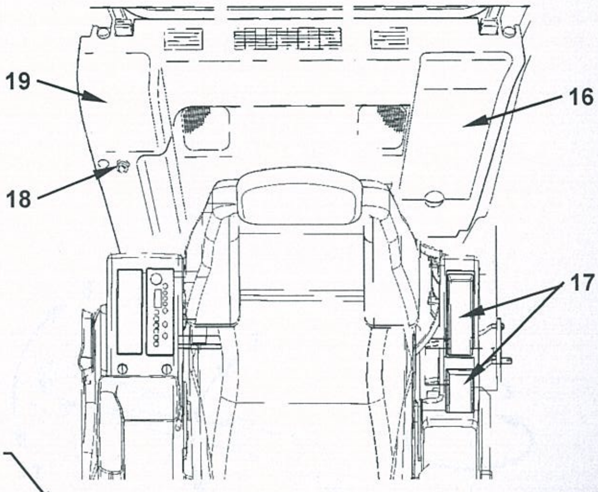
19- 小物入れ(ホット アンド クールボックス)

20- エンジン停止スイッチ

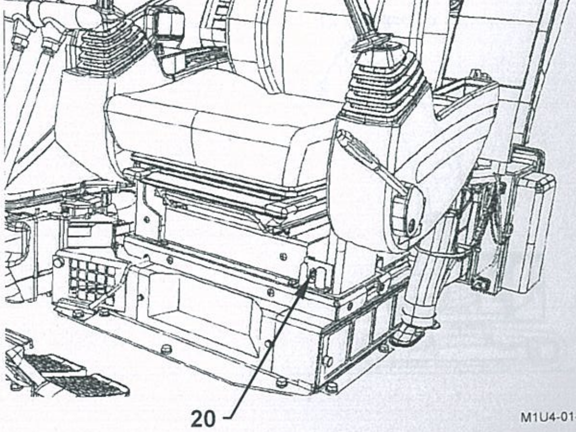
21- ブーム角度警報スイッチ



M1U4-01-010



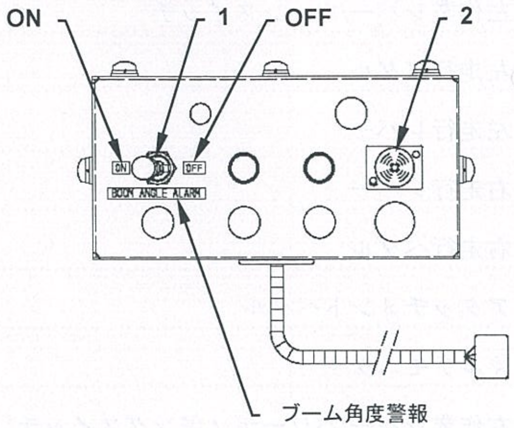
M1U4-01-009



M1U4-01-012

ブーム角度警報ブザースイッチ

⚠ 警告： 常にブーム角度警報スイッチ(1)を「ON」にしてください。「OFF」にして使用するとブーム角度が作業範囲を外れても警報ブザーが鳴らずに車体が転倒する危険があります。



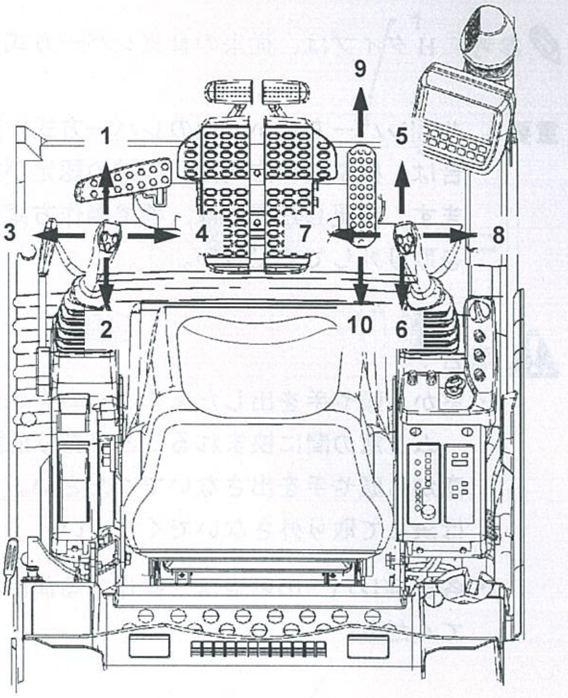
1. 作業前にブームを設定角度まで倒し、ブザー(2)が鳴ることを確認してください。
   設定角度は作業範囲図を参照ください。
2. ブーム角度警報ブザースイッチ(1)を常に「ON」にしてください。

作業要領

作業レバー(JIS レバー方式) (標準)

警告：
- 窓から頭や手を出したままブームを動かすと、ブームと窓の間に挟まれることがあり危険です。
  窓から頭や手を出さないでください。また、窓機は決して取り外さないでください。
- 各作業レバーの動きは、操作する前に常に確認してください。
- 本機の作業レバーの操作方向は、国土交通省の指導により JIS 規格に基づいています。
  操作方向の変更は、誤動作の原因となりますので行わないでください。

重要： JIS レバー方式から他のレバー方式に変更した場合は、標準操作方式建設機械の認定が無効となります。変更した場合は、標準操作方式認定ラベルを取り外してください。

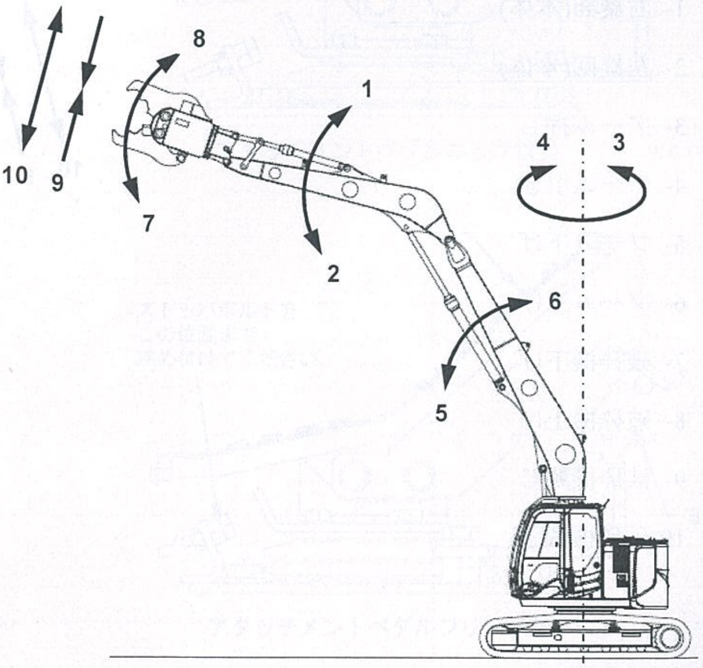


M1U1-01-003

出荷時にキャブ内右側に操作銘板を張り付けてあります。

作業レバー(ペダル)から手を離すと作業レバー(ペダル)は中立位置に戻り、旋回体、アーム、ブームおよび破砕機はその位置に保持できます。

1- アーム押し
2- アーム引き
3- 左旋回(本体)
4- 右旋回(本体)
5- ブーム下げ
6- ブーム上げ
7- 破砕機下げ
8- 破砕機上げ
9- 破砕機閉じ
10-破砕機開き



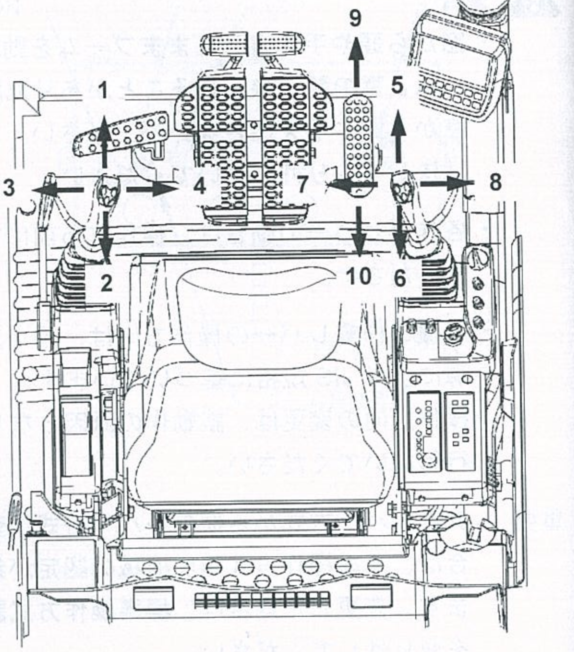
作業レバー(H タイプ) (オプション)

参考: Hタイプは、従来の日立レバー方式です。

重要: JIS レバー方式から他のレバー方式に変更した場合は、標準操作方式建設機械の認定が無効となります。変更した場合は、標準操作方式認定ラベルを取り外してください。

警告:

- 窓から頭や手を出したままブームを動かすと、ブームと窓の間に挟まれることがあり危険です。
  窓から頭や手を出さないでください。また、窓桟は決して取り外さないでください。
- 各作業レバーの動きは、操作する前に常に確認してください。

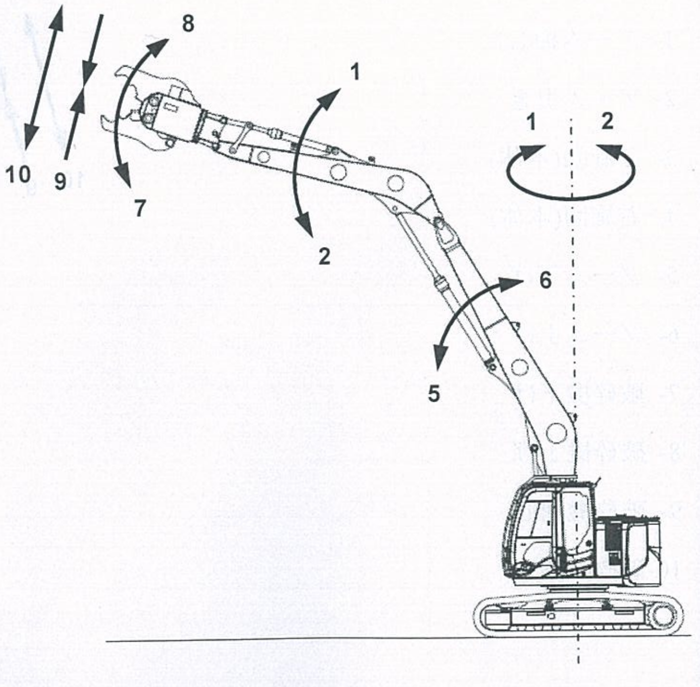


M1U1-01-003

出荷時にキャブ内右側に操作銘板を張り付けてあります。

作業レバー(ペダル)から手を離すと作業レバー(ペダル)は中立位置に戻り、旋回体、アーム、ブームおよび破砕機はその位置に保持できます。

1- 右旋回(本体)
2- 左旋回(本体)
3- アーム押し
4- アーム引き
5- ブーム下げ
6- ブーム上げ
7- 破砕機下げ
8- 破砕機上げ
9- 破砕機閉じ
10-破砕機開き

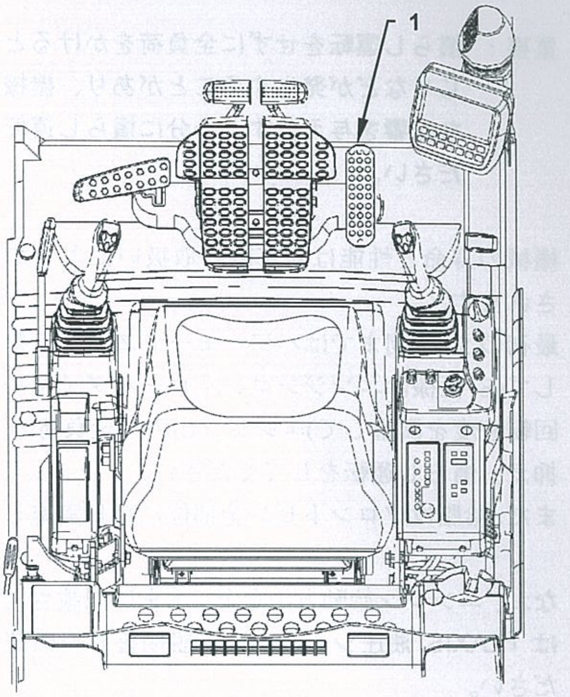


作業要領

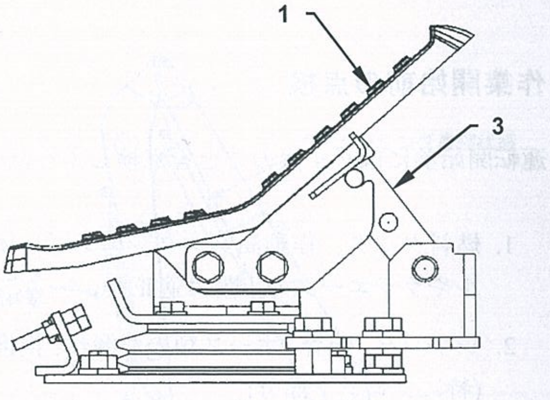
操作ペダル

注意： アタッチメントペダル(1)を操作しないときは、ペダルロック(3)を「ロック位置」にしてください。
アタッチメントペダル(1)を操作しないときは、ペダルに足を乗せないでください。

1. ペダルロック(3)を前方に倒して「ロック解除位置」にします。
2. アタッチメントペダル(1)を前方に踏み込むと、破砕機(閉)が作動し、後方に踏み込むと破砕機(開)動作を行います。
3. アタッチメントペダル(1)から足を離すと破砕機閉/開はその位置に保持されます。
4. アタッチメントペダル(1)を操作しないときはペダルロック(3)を「ロック位置」にしておいてください。

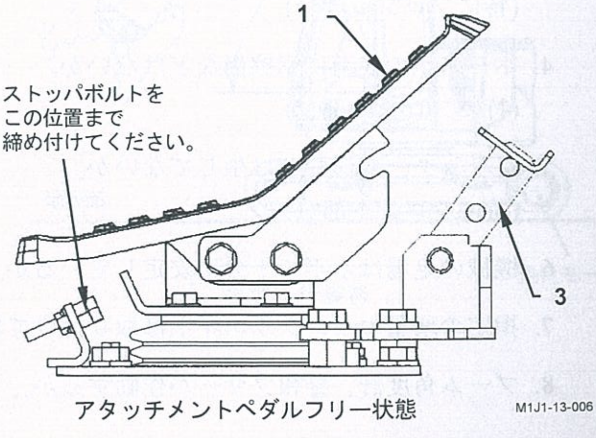


M1U1-01-003



アタッチメントペダルロック状態

M1J1-13-012



アタッチメントペダルフリー状態

M1J1-13-006

新車時の慣らし運転

重要： 慣らし運転をせずに全負荷をかけると焼付き、かじりなどが発生することがあり、機械寿命に大きな影響を与えます。十分に慣らし運転を行ってください。

機械の寿命と性能は新車時の取扱いによって大きく影響されます。
最初の50時間まではパワーモードスイッチをEモードにして(E 仕様はエンジンコントロールダイヤルでエンジン回転速度を調整して)エンジン出力を全負荷の80%程度に抑え、慣らし運転をしてください。
また、給脂はフロントピン全部位に毎日実施してください。

なお、エンジン始動方法など、本書に記載されている以外は「ZAXIS 油圧ショベル取扱説明書」を熟読参照してください。

作業開始前の点検

運転開始前には必ず次のことを点検してください。

1. 燃料タンク、作動油タンク、エンジンオイルのレベルやラジエータの水量は適正か。
2. シリンダ、配管、ホース類の油漏れ、損傷はないか。(特にフロント部分)
3. 取付けボルト、継手類の緩み、脱落はないか。(特にフロント部分)
4. ホース類の表面に摩擦傷などはないか。(特にフロント部分)
5. クラック、変形などは生じてないか。(特にフロント部分)
6. 機械の足場は水平で十分に安定しているか。
7. 指定の増量カウンタウエイトは取り付けてあるか。
8. ブーム角度計、警報ブザーが作動するか。

運転前の確認

注意：　次のことに注意してください。

- 転倒などの事故による傷害を最小限にとどめるため、機械を運転するときはシートベルトを装着してください。
- 操作する前にレバーおよびペダルの方向と機械の向きが一致していることを確認してください。

それぞれのレバーおよびペダルをゆっくり動かし、フロントの動作を確認してください。
（「作業レバー」の項を参照）

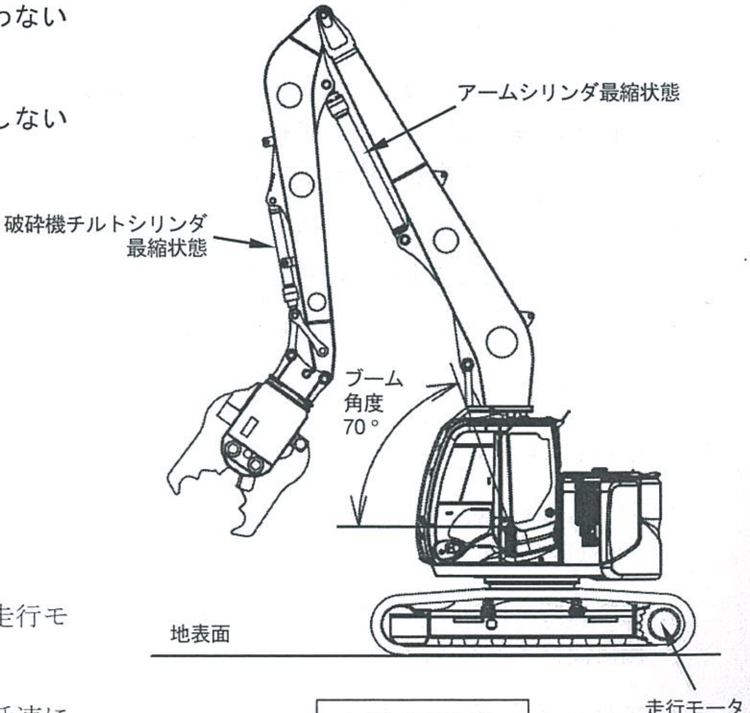
走行要領

警告：

- 走行中、走行モードスイッチの切替えは行わないでください。転倒する恐れがあります。
- 走行中、旋回やフロントなどの同時操作をしないでください。

平地走行

1. 誘導者をつけてください。
2. 右図に示す姿勢にしてください。
   - ブーム角度 70° (角度計による)
   - アームシリンダは最縮の状態
   - 破砕機チルトシリンダは最縮の状態
   - フロント方向はクローラの前後方向に合わせ、走行モータは後ろの状態
3. エンジン回転数を中速以下にし、走行モードを低速にして、ゆっくり走行してください。



平地走行姿勢

傾斜地の走行

注意：次のことに注意してください。

・登降坂角度は 10°以下としてください。ブーム角度は下表を目安としてください。

・傾斜面を斜めに横切ったり、横断・方向転換は行わないでください。横滑り、転倒の恐れがあります。

・走行路は凹凸が無いように平滑にし始点・終点は登降坂角度が急激に変化しないように均してください。また、沈下・崩落しないよう十分締め固めてください。

・走行中は旋回・フロントなどの操作は行わないでください。

・走行中は走行モードスイッチの切替えを行わないでください。登降坂中に走行したまま切替えを行うと、衝撃により転倒する恐れがあります。

・エンジン回転数を中速以下、走行モードを低速にし、急発進・急停止にならないようゆっくり操作、走行してください。

・登降坂角度が変化する地点(A)では本体の重心位置が急激に移動します。走行路をなだらかに均して、ゆっくり慎重に通過してください。

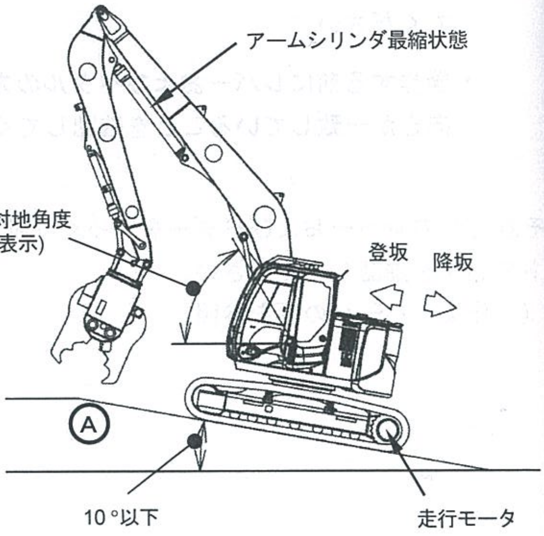
1. 誘導者をつけてください。また、誘導者は衝突防止だけでなく転倒防止にも注意を払ってください。
2. 登降坂する直前に、下記の姿勢にしてください。

・アームシリンダは最縮の状態

・破砕機チルトシリンダは最縮の状態

・フロント方向はクローラの前後方向に合わせ、走行モータは後ろの状態

3. 登降坂時共にフロントを山側にし、走行モータを谷側に向けてください。
4. エンジン回転数を中速以下にし、ゆっくり走行してください。



傾斜地走行姿勢

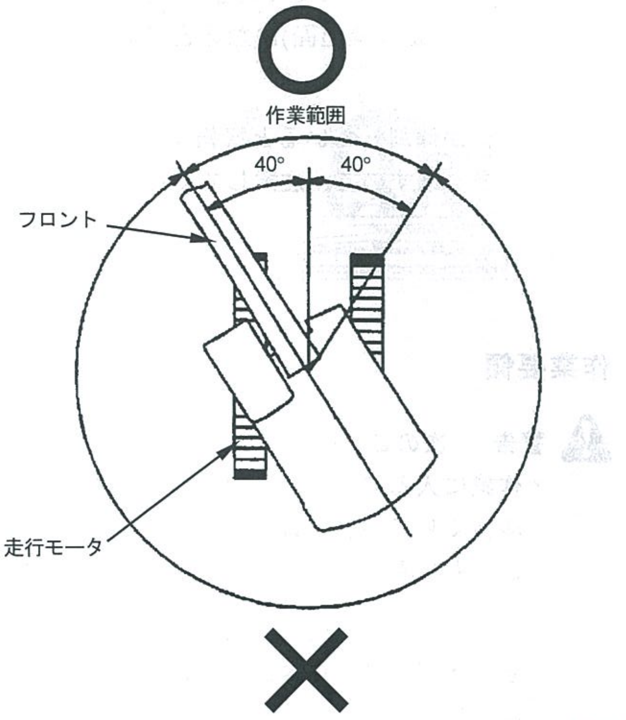
表 1

登坂角度	ブーム対地角度 (角度計の表示角度)
0°	70°
5°	60°
10°	50°

機械の据付方法(ハイリフトフロントでの解体作業時)

注意： 次のことに注意してください。

- 水平堅土上に据え付けてください。軟弱地盤は敷板などで確実に養成してください。
- クローラをフロント方向に向け、走行モータが後ろにくるようにします。
- フロントを平地走行姿勢(「平地走行」の項を参照)にします。



作業姿勢

フロント旋回範囲

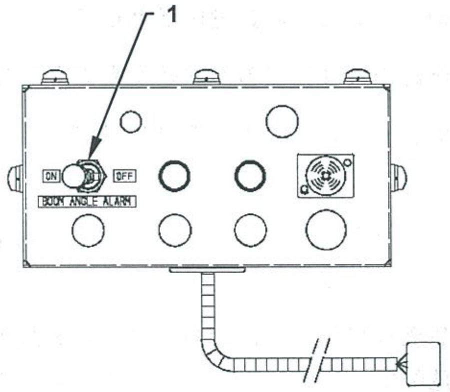
警告： 次のことに注意してください。

- 足場は水平堅固な場所にしてください。
- クローラに対するフロント方向が、右図に示す作業範囲から外れると、転倒する危険があります。

ブーム角度警報スイッチ

警告： 次のことに注意してください。

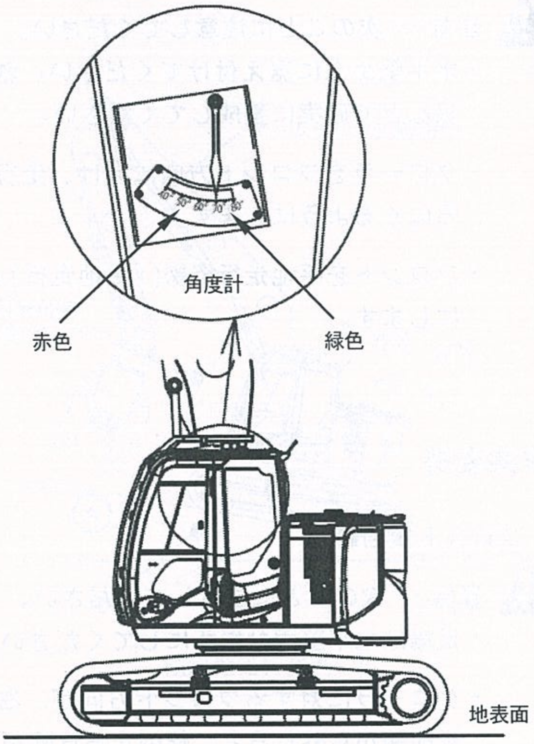
- 本体が水平な状態でブーム角度は70° 以上としてください。また、ブーム角度が70° 以下になっても、本体が傾斜していると警報ブザーが鳴らない場合がありますので、注意してください。
- ハイリフトフロントでの解体作業時はブーム角度警報スイッチ(1)を常に「ON」の状態にしてください。「OFF」にして作業するとブーム角度が指定角度以下に倒れても警報が鳴らずに転倒する危険があります。



ブーム角度範囲

注意： 次のことに注意してください。

- 作業時は本体が水平な状態で、ブーム角度を右図の角度計に示すように角度銘板の緑色の範囲内(作業範囲)に保ってください。ブーム角度が赤色の範囲(禁止作業範囲)になると警報ブザーが鳴ります。
- 本体が傾斜していると警報ブザーが鳴らない場合がありますので、注意してください。

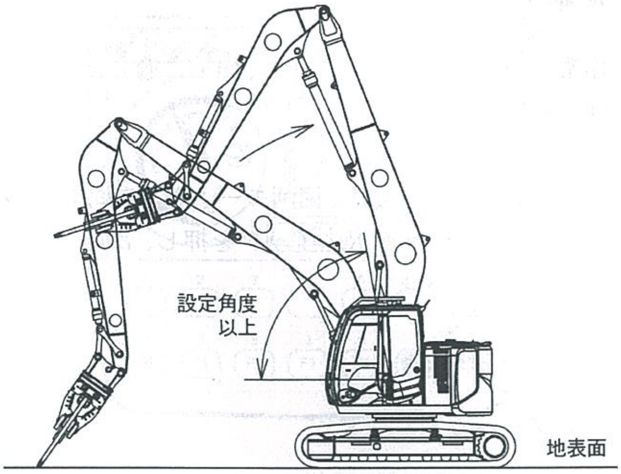


作業要領

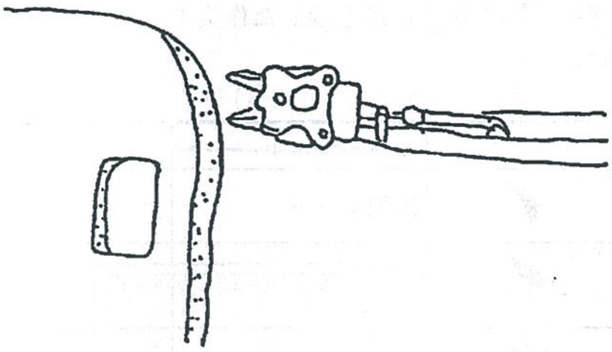
警告： 次のことに注意してください。

- 作業に入る前にレバーおよびペダルの単独操作をゆっくり行い、フロントの動作を確認してください。もし異常があれば直ちに修理してください。
- ブームを設定角度まで倒し、警報ブザーが鳴ることを確認してください。もし異常があれば直ちに修理してください。
- 指定の増量ウエイトを装着してください。
- 破砕機は指定の質量以下としてください。
- 破砕作業は指定の作業範囲内で行ってください。
- 傾斜地、ガラの上での作業は禁止です。本体を水平堅土上に設置して作業を行ってください。
- 作業時の反力により地盤が沈下、崩落等していないか常に注意してください。
- 急激な操作は転倒や重大な人身事故の恐れがあり、危険です。余裕をもった作業計画を立ててください。
- 破砕物などをつかみ上げないでください。安定度が低下し、転倒する恐れがあります。

1. 駐車(「作業終了後の駐車」の項を参照)の状態からブーム操作のみを行い、ブームを設定角度以上(角度計の緑色の範囲)に起します。

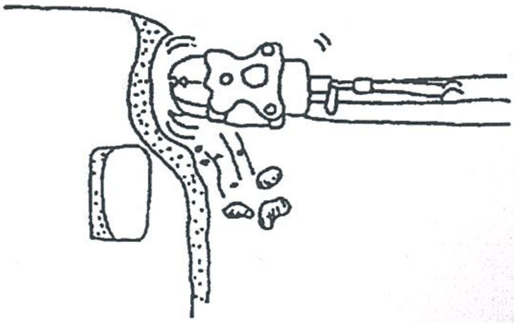


2. 主に、アームの操作と破砕機のチルト操作を行い、解体対象物の破砕または切断したい位置に破砕機の先端を合わせます。



M16J-03-010

3. 破砕機の爪を開閉することにより解体対象物の破砕または切断をします。破砕または切断した破砕物は破砕機でつかんだりせず、そのまま落下させてください。



M16J-03-011

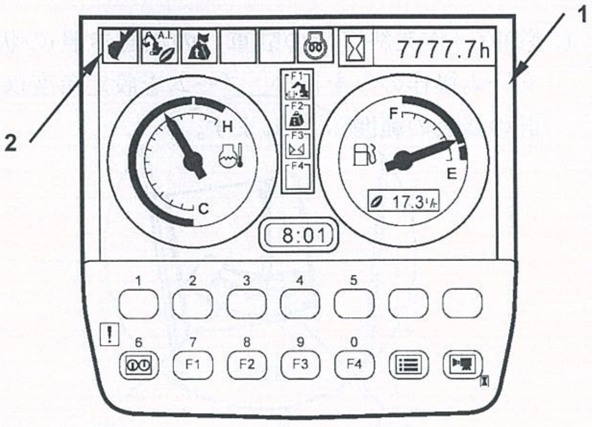
作業要領

作業モード

作業モードスイッチを操作し、作業に適したフロントと旋回の速度を選びます。

エンジンを始動すると、掘削モードが自動的にセットされます。作業モード選択スイッチを押し、次の5つの作業モードが選択できます。

- 掘削モード
- ブレーカ1モード
- ブレーカ2モード
- 小割機1モード
- 破砕機1モード



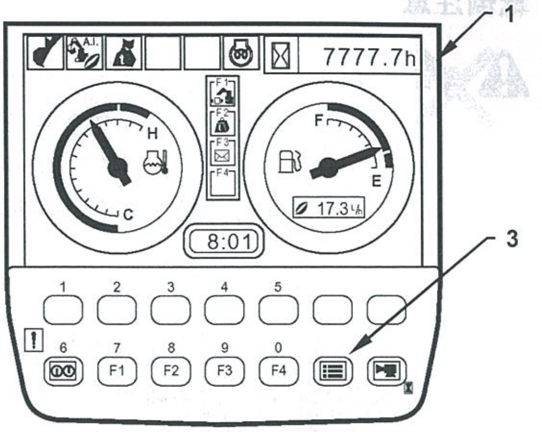
M1U1-01-004

選択された作業モードは、基本画面(1)のアタッチメントモードインジケータ(2)に表示されます。
下の表から作業に最も適した作業モードを選んでください。

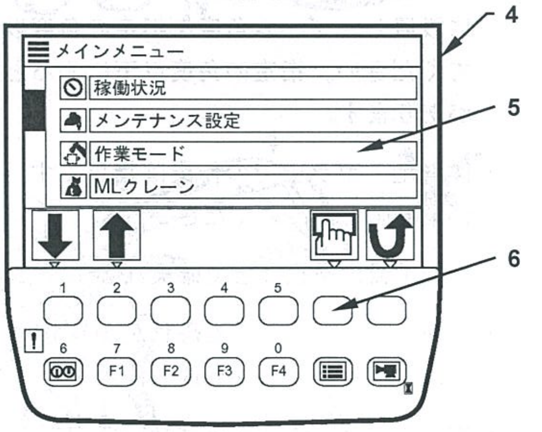
	モード	選択の目安
	掘削モード	ハイリフトフロントでは使用しないモードです。
	ブレーカ1モード	ハイリフトフロントでは使用しないモードです。
	ブレーカ2モード	ハイリフトフロントでは使用しないモードです。
	小割機1モード	ハイリフトフロントでは使用しないモードです。
	破砕機1モード	ハイリフトフロントではこのモードを選択してください。

作業モード設定のしかた

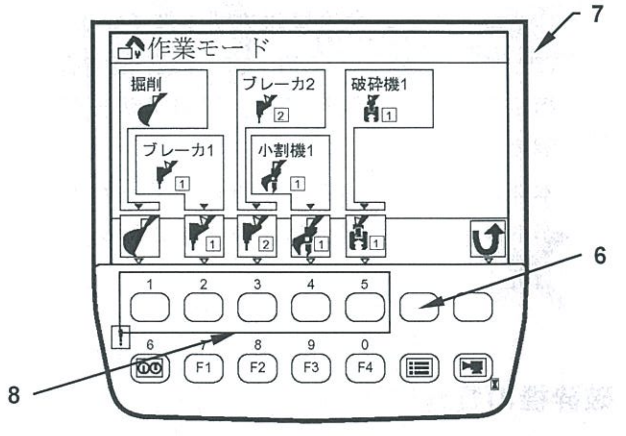
基本画面(1)の状態よりメニューキー(3)を押し、メインメニュー画面(4)に切替えます。
メニュー画面(4)より、⬇⬆キーを操作し作業モード(5)を選択し、確定キー(6)を押します。
作業モード選択画面(7)より、作業に適したモードを選択し下側キー部分(8)を押し、確定キー(6)を押します。



T1V1-05-01-008



T1V1-05-01-121

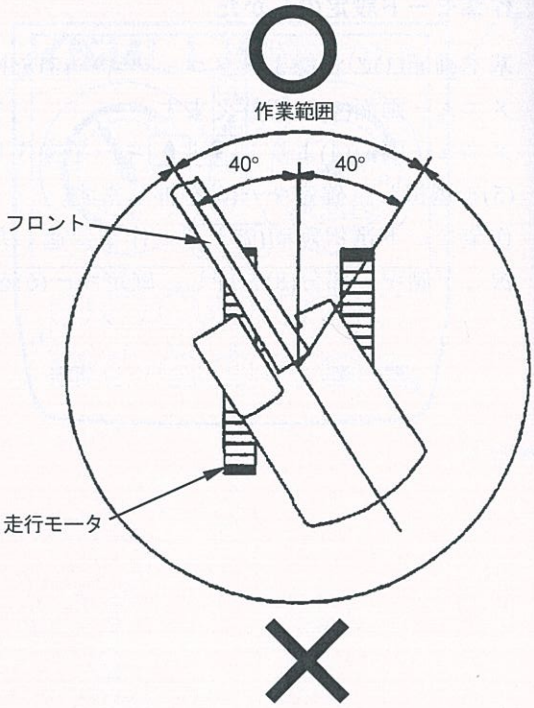


T1V1-05-01-109

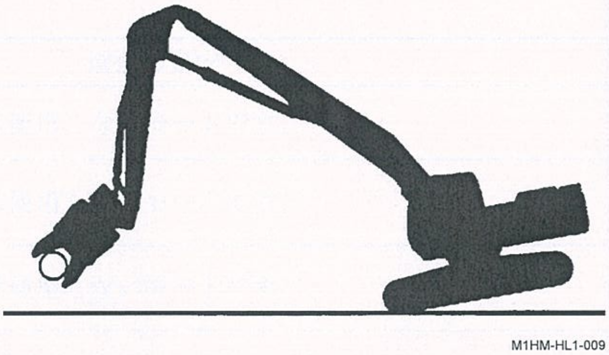
転倒注意

⚠ 警告：ハイリフトフロントアタッチメントは、バックホウフロントに比べ重いため、安定度が低下します。操作を誤ると転倒し、死亡や重大な人身事故となる恐れがあります。

- 指定の増量一体型ウエイトを取り付けてください。
- クローラに対するフロントの方向は右図に示す範囲で行ってください。作業範囲を外れると転倒する危険があります。
- 破砕作業は、本体を水平堅土で耐久力のあるところに設置し、ブーム角度を指定の角度以上にして行ってください。指定の角度以下にすると転倒する恐れがあります。
- 傾斜地、ガラ上での作業は禁止です。余裕を持った作業計画を立ててください。
- 軟弱地盤は敷板などで確実に養生してください。
- 急激な操作は転倒する恐れがあり危険です。
  特に走行はゆっくり発進・停止させてください。
- 破砕物などをつかみあげないでください。
  安定度が低下し、転倒することがあります。
- 作業時はブーム角度警報ブザースイッチを常に「ON」にしてください。「OFF」にして作業するとブームが指定角度以下に倒れても、警報ブザーが鳴らずに転倒する危険があります。
  本体が傾斜していると、警報ブザーが鳴らない場合がありますので、本体は堅土上に据え付けて水平にしてください。



SA-1155

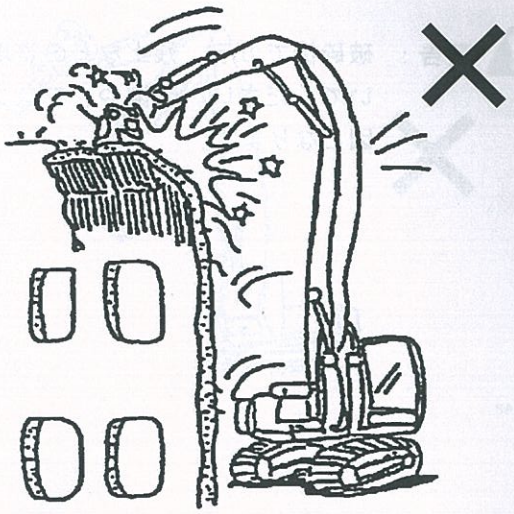

M1HM-HL1-009

破砕機の質量に注意

⚠ 警告：本機に装着する破砕機の質量は、指定の質量以下としてください。
指定の質量より重い破砕機を装着すると、安定度が低下し転倒やフロントを損傷する原因となります。

横当て作業の禁止

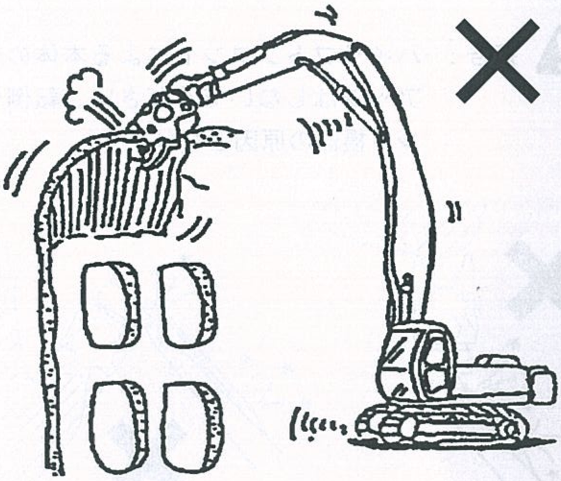
⚠ 注意： 本体の旋回力を利用した横当て破砕作業はしないでください。
転倒したり、フロントの損傷や旋回系の寿命を縮める原因となります。



SA-1420

突き、引き作業の禁止

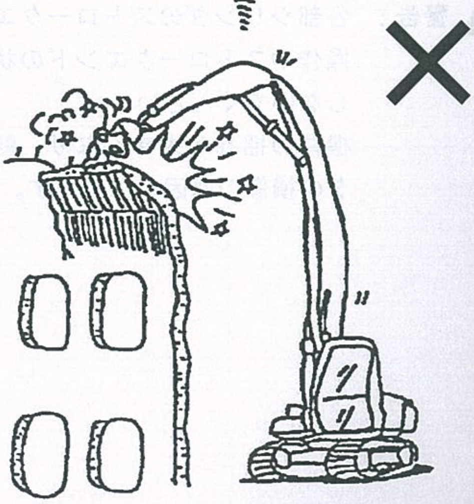
⚠ 警告： 破砕機や走行力を利用した突き･引き作業はしないでください。
転倒したり、フロントを損傷する原因となります。



SA-1421

フロント落下力での破砕作業禁止

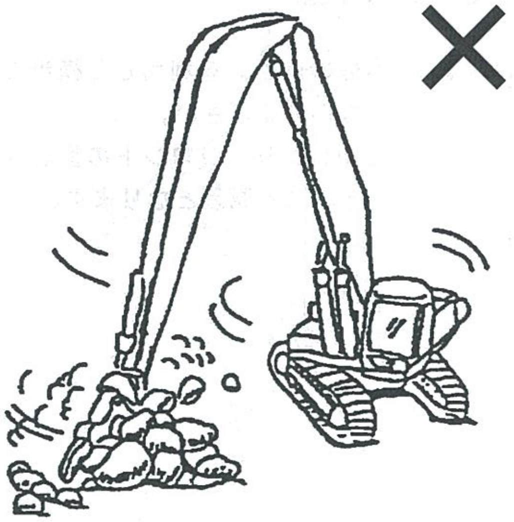
⚠ 警告： フロントの落下力を利用した破砕作業はしないでください。
転倒したり、フロントを損傷する原因となります。



SA-1422

整地作業の禁止

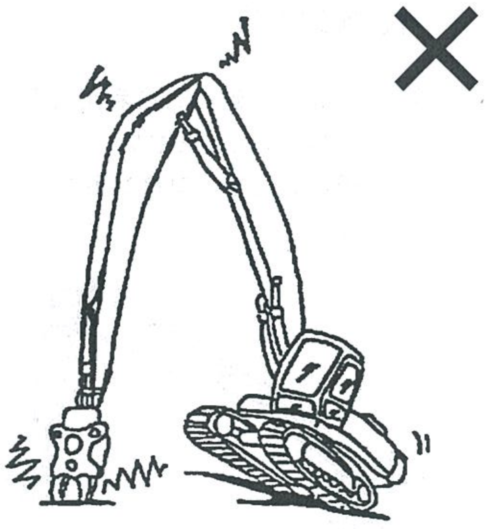
⚠ 警告： 破砕機でガラ、残土などの整地作業はしないでください。転倒や、フロント損傷の原因となります。



SA-1423

ジャッキアップの禁止

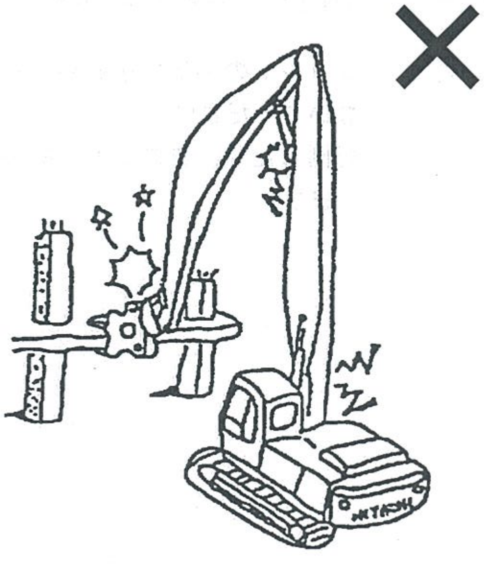
⚠ 警告： ハイリフトフロントによる本体のジャッキアップはしないでください。転倒や、フロント損傷の原因となります。



SA-1424

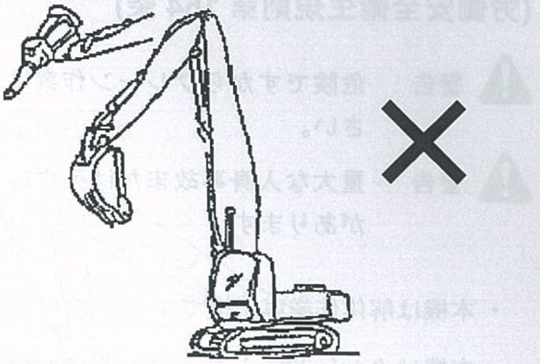
急激な運転操作の禁止

⚠ 警告： 各部シリンダのストロークエンドまでの急操作やストロークエンドの状態での操作はしないでください。
機体の揺れが大きくなり、転倒や、シリンダの損傷の原因となります。



SA-1425

ハイリフトフロントの仕様外使用



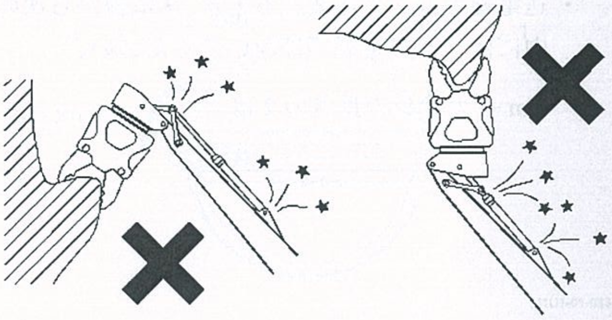
SA-1426

⚠ 警告： 指定の質量以上の破砕機や破砕機以外のアタッチメントを取り付けて作業をしないでください。
転倒したり、フロントを損傷する原因となります。

破砕機との当り注意

⚠ 注意： アームシリンダを最縮に近い状態で破砕機チルトシリンダを伸ばしますと、破砕機がブームに当たることがありますので注意してください。

破砕機チルトシリンダのストロークエンドでの作業禁止



SA-1268

重要： 破砕機チルトシリンダが最伸長・最縮長状態またはそれに近い状態で解体作業を行いますと、破砕機チルトシリンダやフロント各部に損傷を与える原因となります。シリンダストロークに 50 mm 以上の余裕を持たせ、無理な力が加わらないよう十分注意の上、作業をしてください。

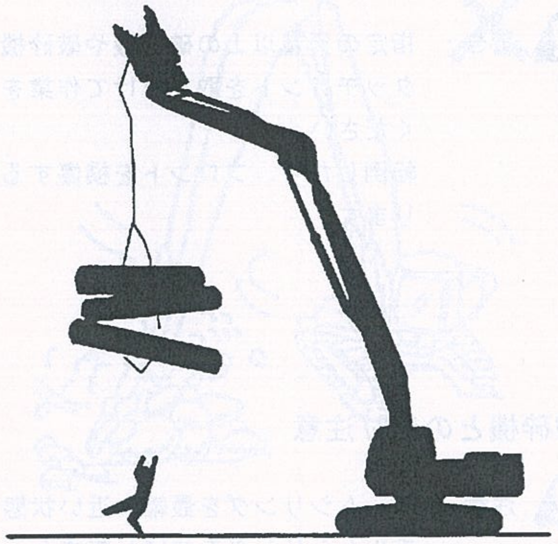
クレーン作業は禁止
(労働安全衛生規則第 164 条)

⚠ 警告： 危険ですからクレーン作業はしないでください。

⚠ 警告： 重大な人身事故または死亡につながる恐れがあります。

・本機は解体作業専用機です。

・本機はクレーンとしてのつり上げ装置や安全装置を装着しておりません。



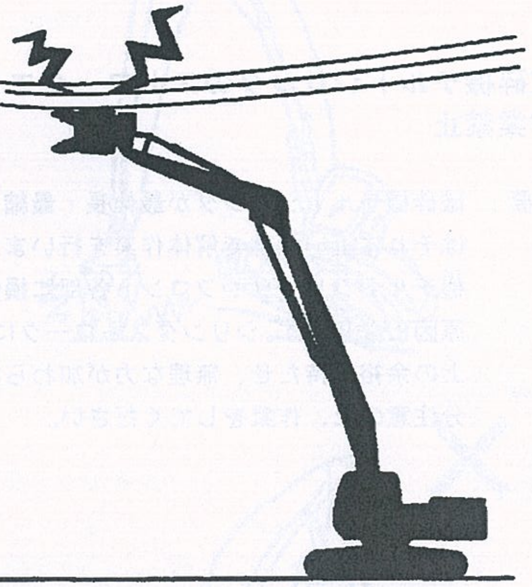
SA-1416

送電線に注意

⚠ 警告： 送電線に接近すると感電し、重大な人身事故または死亡につながります。

・送電線の近くで作業するとき、送電線から次の距離以内には、本機を近づけないでください。

3 m + ガイシの長さの 2 倍

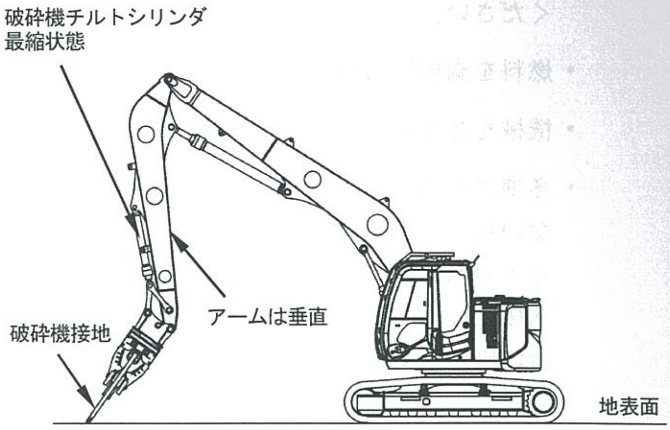


SA-1417

作業終了後の駐車

⚠ 注意： 作業終了後は破砕機を地面に下ろしてください。また、破砕機を立てたまま長時間放置すると、ブームが下がることがあり危険です。

重要： キャブのドアや窓を開けたまま駐車すると風雨などによりキャブ内の電子・電気部品を損傷することがあります。駐車時はキャブのドアおよび窓を全て閉じてください。



駐車姿勢

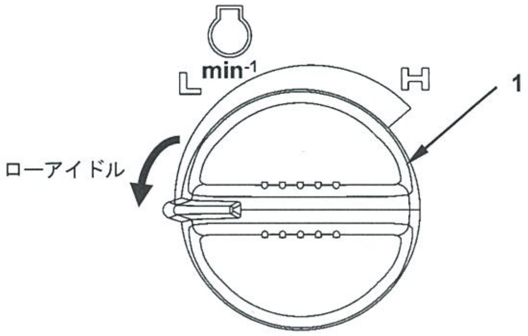
1. 機械を水平堅土上に据え付けてください。軟弱地盤は敷板などで確実に養成してください。
2. 下記に示す姿勢にしてください。

・アームは地面に対し垂直状態

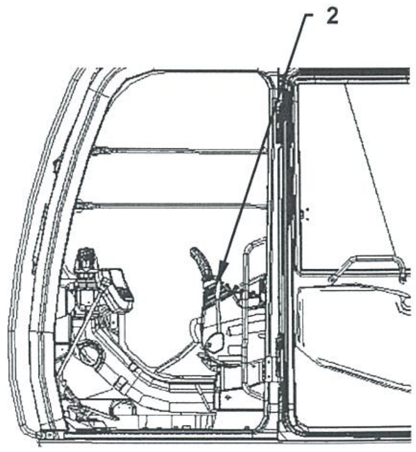
・破砕機チルトシリンダは最縮状態

・破砕機を地面に接地

3. エンジンコントロールダイヤル(1)を反時計方向にいっぱいに回し、ローアイドル回転にしてから5分程度の「冷機運転」を行ってください。
4. ロックレバー(2)を引き上げて「ロック位置」にしてください。
5. キーを「OFF」の位置にしてエンジンを止め、キーを抜いてください。
6. 機械を離れるときは、窓やキャブのドアおよびすべてのカバーを閉じ、施錠してください。



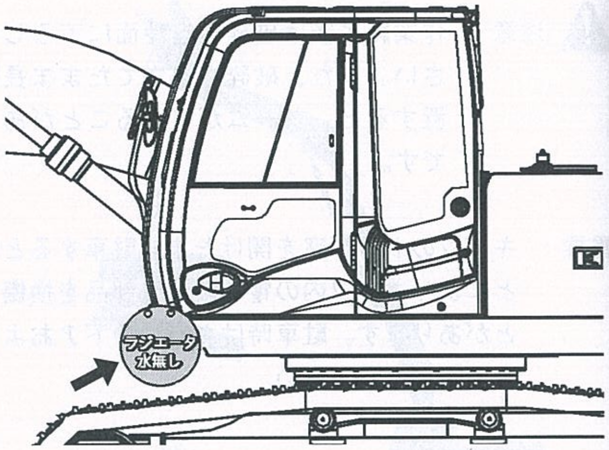
M1U1-01-033



M1U1-01-025

ロック位置

作業終了後の注意事項



M1U1-05-002

- 作業終了後、落石、土砂崩れ、増水の恐れのない水平な堅土上に移動し、駐車要領に従って確実に駐車してください。
- 燃料を満杯になるまで補給してください。
- 機械をきれいに掃除しておきましょう。
- 冬期に不凍液、ロングライフクーラントを添加していない場合、ラジエータおよびエンジンウオータジャケットの水を抜いてください。
  水抜き後は「ラジエータ水無し」の札を分かりやすい所に掛けてください。

輸　送

道路輸送

重量物を道路輸送する場合、道路法・車両制限令、道路交通法および道路運送車両法などの法令を守る必要があります。

- トレーラなどで本機を輸送する場合、本機積載時の幅、高さ、長さ、質量などについて検討ください。フロントの仕様により、重量・輸送寸法が異なります。「輸送寸法および質量」の項を参考にトレーラを選定し過積載にならないように注意してください。
- 通行経路について、道幅や高さ、重量制限および交通規制など、事前調査を行ってください。
場合により関係官庁の許可を得たり、分解して輸送するなどの対応が必要となることがあります。
- 輸送するときは、最寄りの弊社支店または営業所にお問い合わせください。

道路輸送時の積込み、積卸し

⚠ 注意：　道路輸送をする場合は、関係法規を遵守してハイリフトフロント、破砕機、増量一体型ウエイトを必要に応じて取り外してください。

輸　送

積込み、積卸しは平たんで堅固な場所で行ってください。

⚠ 注意： 積込み、積卸しは道板または発送台を使用してください。

道板・発送台

- トレーラの床や、道板または発送台はきれいに清掃してください。油や泥、氷などが付着していると滑りやすく危険です。
- トレーラが動かないように、トレーラのタイヤにブロックをかませ、固定してください。
- 道板は十分な長さ、幅および強度を有するものを用い、10°以下の傾斜で確実に取り付けてください。
- 発送台を使用する場合、十分な幅、強度を確保するとともに傾斜を10°以下にしてください。

トレーラへの積込み、積卸し

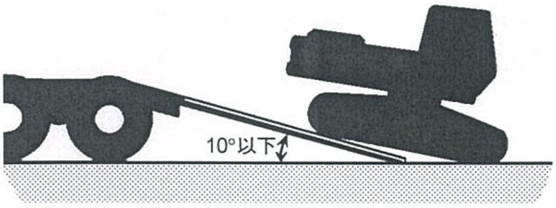
注意：　次のことに注意してください。

- オートアイドル・オートアクセル選択スイッチを「OFF」に、また、パワーモードスイッチを必ず「P」または「E」にしてください。オートアイドル、またはオートアクセル機能を作動させた状態で運転すると、急にエンジン回転が変化しますので注意してください。
- 走行モードスイッチは低速にしてください。
- 道板上での方向変換は転倒の危険があります。方向変換操作は行わないでください。方向を変える場合、いったん地上または荷台に戻り向きを正し、再度上りなおしてください。
- 道板とトレーラとの境目では機体の重心が急に移動しバランスが崩れ危険です。ゆっくり通過してください。
- トレーラの上での上回りの旋回は、転倒の危険があります。行わないでください。

積込み

フロント、破砕機、および増量一体型ウエイトを取り外し、後進で積み込みます。

1. 機械の中心線をトレーラの中心線に合わせて積み込んでください。
2. 道板の上を低速で、ゆっくり積み込んでください。



M107-06-018

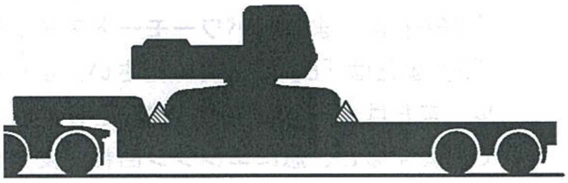
3. エンジンを停止し、キーをキースイッチから抜いてください。

4. ロックレバーをロック位置にしてください。

5. 雨風が入らないよう、ガラス窓、天窓、運転席ドアは確実に閉じてください。排気管の開口部にはカバーをかけてください。

6. ミラーおよびラジオのアンテナを格納してください。

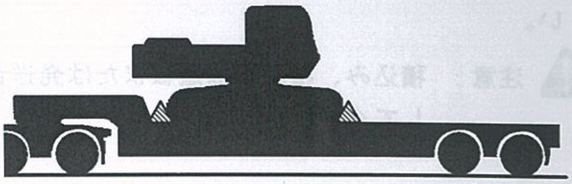
参考: 寒冷時に積込み、積卸し作業を行う場合、十分な暖機運転を行ってください。



M1HM-OP3-002

輸送前の固定

⚠ 注意： ワイヤロープかけを行い、確実に本機を荷台に固定してください。



M1HM-OP3-002

輸送時は、積荷に振動や前後移動および横揺れが発生します。

1. 履帯の前後に歯止めをかませ、本体を固定してください。
2. 本体、フロントとも十分にワイヤロープかけを行い、しっかり荷台に固定してください。

積卸し

⚠ 注意： 機体の積卸しをするときは、道板とトレーラとの境目での、機体のバランスに注意してください。

1. トレーラ後端から道板へ移動させるときは、機体のバランスを崩さないように静かに移動します。
2. 道板を降りるときは、機体が完全に道板から離れるまで、旋回や他の同時操作をしないで静かに前進して降りてください。

構内輸送時のトレーラへの積込み、積卸し

積込み、積卸しは平たんで堅固な場所で行ってください。

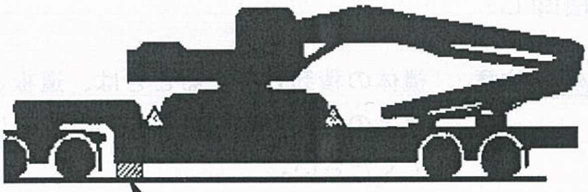
注意：　積込み、積卸しは道板または発送台を使用してください。

道板・発送台

構内輸送でハイリフトフロントを取り付けたまま輸送する場合は、以下に従ってください。

1. トレーラの床や、道板または発送台はきれいに清掃してください。油や泥、氷などが付着していると滑りやすく危険です。
2. トレーラが動かないように、トレーラの荷台下とタイヤにブロックをかませ、固定してください。
3. 道板は十分な長さ、幅および強度を有するものを用い、10°以下の傾斜で確実に取り付けてください。
4. 発送台を使用する場合、十分な幅、強度を確保するとともに傾斜を10°以下にしてください。
5. 関東ロームや粘土が付着している場合、排除してから積込み作業を行ってください。
6. フロントを木材ブロックなどの上に下ろしてください。
7. エンジンを停止し、キーをキースイッチから抜いてください。
8. ロックレバーをロック位置にしてください。
9. 雨風が入らないよう、ガラス窓、天窓、運転席ドアは確実に閉じてください。排気管の開口部にはカバーをかけてください。
10. ミラーおよびラジオのアンテナを格納してください。

参考:　寒冷時に積込み、積卸し作業を行う場合、十分な暖機運転を行ってください。



トレーラへの積込み、積卸し

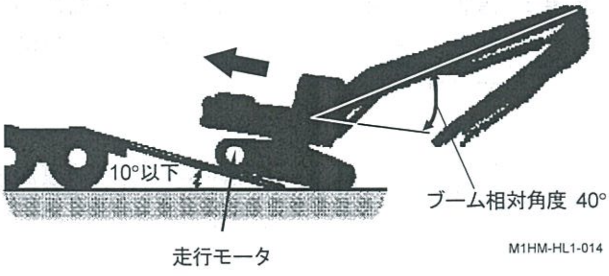
注意： 次のことに注意してください。

- オートアイドル・オートアクセル選択スイッチを「OFF」に、また、パワーモードスイッチを「P」または「E」にしてください。オートアイドル、またはオートアクセル機能を作動させた状態で運転すると、急にエンジン回転が変化しますので注意してください。
- 破砕機は取り外してください。
- 走行モードスイッチは低速にしてください。
- 道板上での方向変換は転倒の危険があります。方向変換操作は行わないでください。方向を変える場合､いったん地上または荷台に戻り向きを正し、再度上りなおしてください。
- 道板とトレーラとの境目では機体の重心が急に移動しバランスが崩れ危険です。ゆっくり通過してください。
- トレーラの上で上回りの旋回操作は行わないでください。バランスを崩し、転倒する危険があります。

積込み

フロントを本体前方にして後進で積み込みます。

1. 破砕機を取り外し､右図に示す姿勢にしてください。
   ブーム角度 40°(角度計による)
   アームシリンダは最縮の状態
   破砕機チルトシリンダは最縮の状態
2. 機械の中心線をトレーラの中心線に合わせて積み込んでください。
3. 道板の上を低速で、ゆっくり積み込んでください。特に道板とトレーラの境目では機体の重心が急に移動しバランスが崩れ危険です。ゆっくり通過してください。



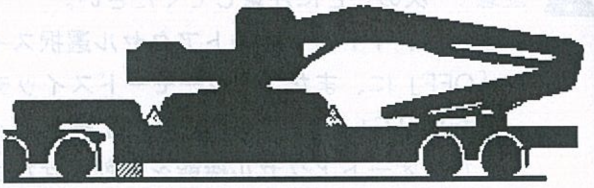
輸　送

輸送前の固定

⚠ 注意： ワイヤロープかけを行い、確実に本機を荷台に固定してください。

輸送時は、積荷に振動や前後移動および横揺れが発生します。

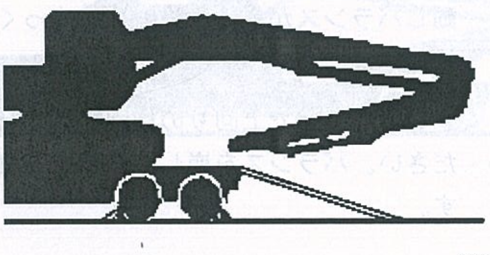
1. 履帯の前後に歯止めをかませ、本体を固定してください。
2. 本体、フロントとも十分にワイヤロープかけを行い、しっかり荷台に固定してください。


M1HM-HL1-013

積卸し

⚠ 注意： 機体の積卸しをするときは、道板とトレーラとの境目での、機体のバランスに注意してください。

重要： 機体の積卸しをするときは、ブームの角度を 40°にしてください。


M1HM-HL1-015

1. トレーラ後端から道板へ移動させるときは、ブームの角度を 40°にして静かに移動します。

重要： 道板への乗り移り時、アームを地面に衝突させないでください。油圧シリンダ損傷の原因となります。

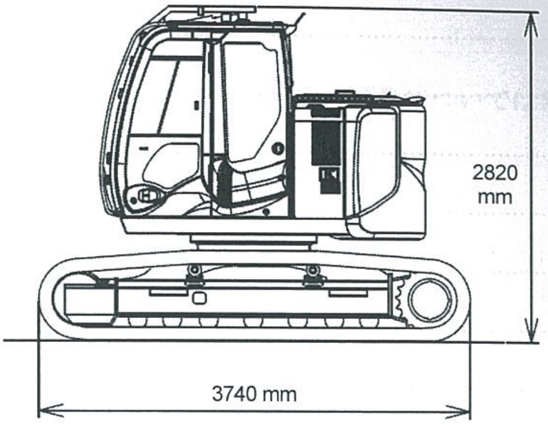
2. 道板を降りるときは、機体が完全に道板から離れるまで、徐々にブームを操作しながら静かに前進して降りてください。

M1HM-HL1-014

輸送寸法および質量

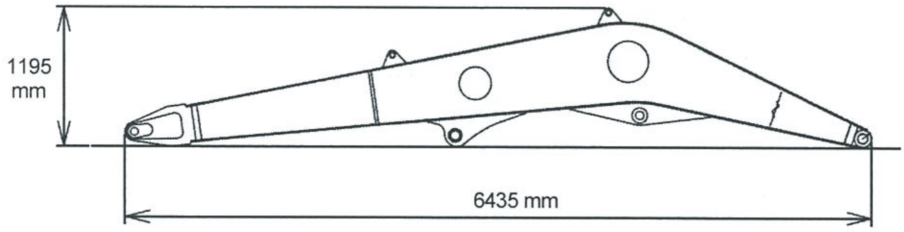
本体(ブームシリンダ・増量一体型ウエイト付き)

機種	シュー幅 mm	最大幅 mm	質　量 kg
ZX135USLCK-3	500	2500	12625



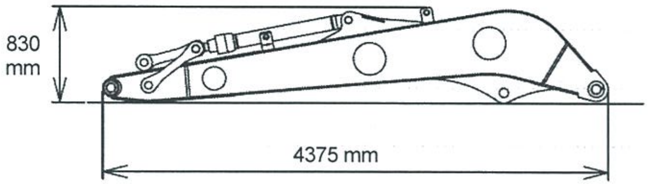
1. ブーム

質量　: 1340 kg
幅　　: 750 mm



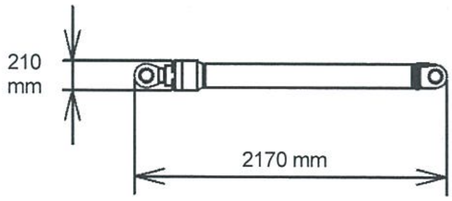
2. アーム（破砕機チルトシリンダ付き）

質量　: 915 kg
幅　　: 360 mm



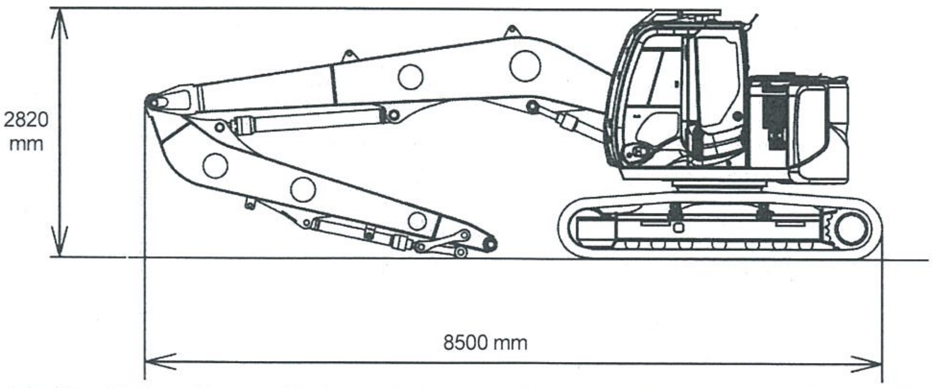
3. アームシリンダ（ZX200-3）

質量　: 260 kg
幅　　: 210 mm



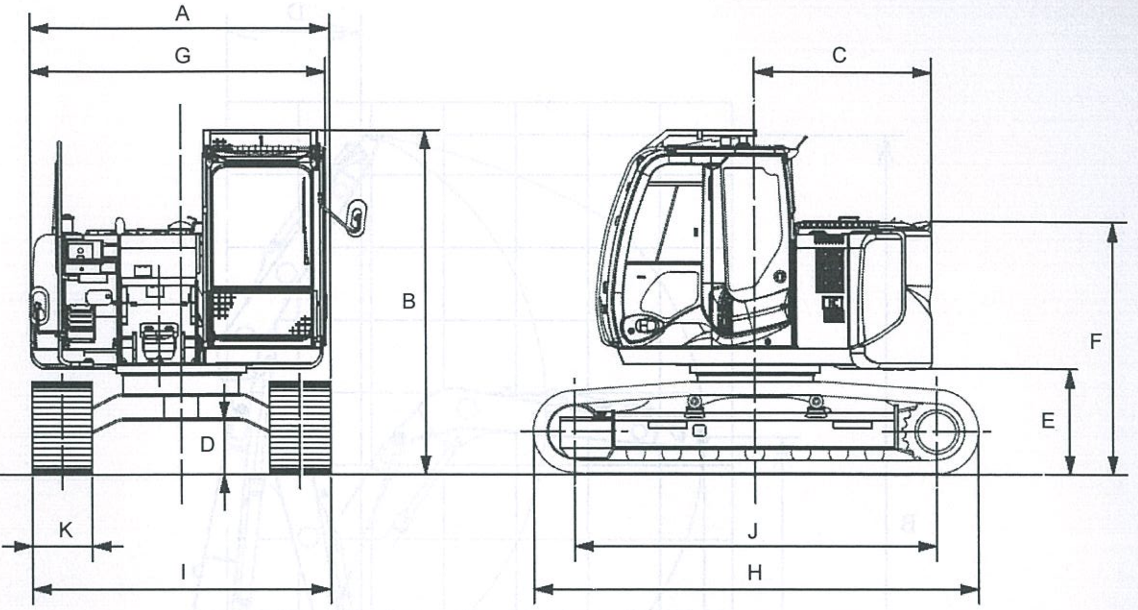
4. 本体（全装備）

質量　: 15140kg
幅　　: 2500mm



仕様

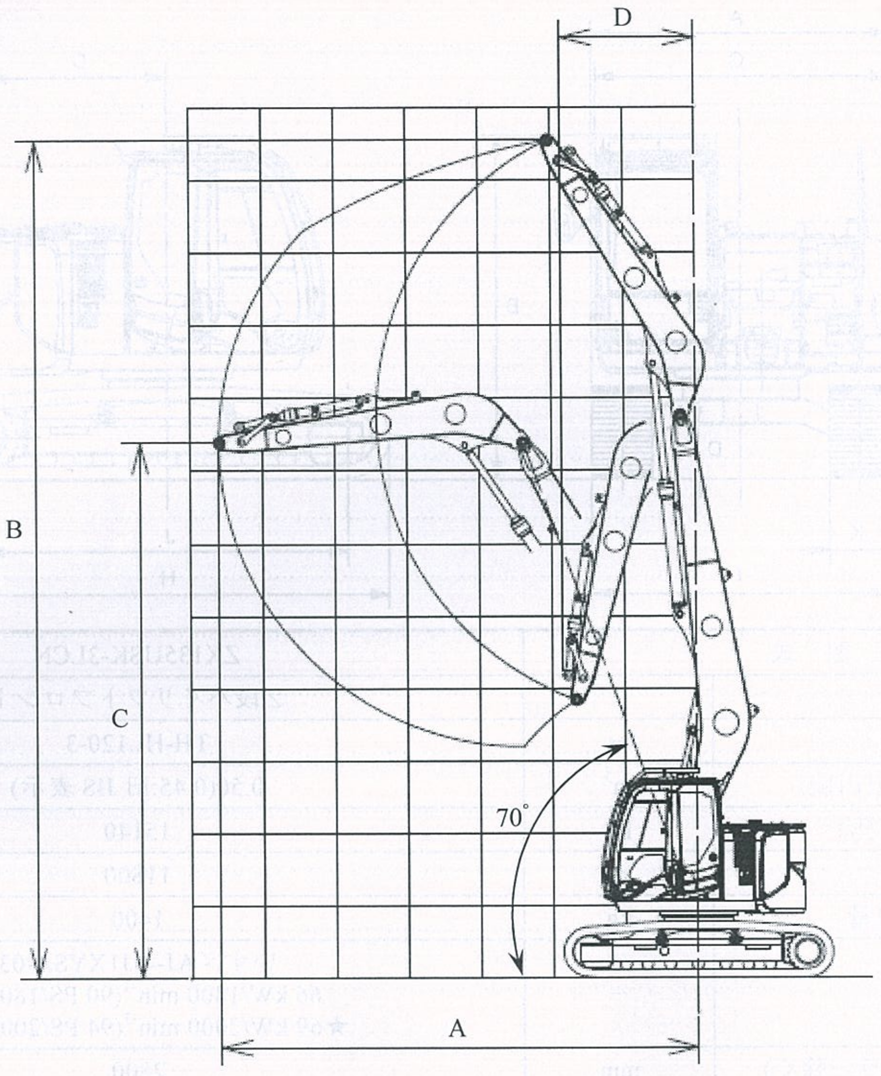
ZX135USK-3LCN



型　式		ZX135USK-3LCN
フロント方式	—	２段ハイリフトフロント
フロント型式	—	TH-HL120-3
標準バケット容量(山積)	m^3	0.50(0.45:旧 JIS 表示)
運転質量 (アタッチメント除く)	kg	15140
機体質量	kg	11800
取付破砕機最大質量	kg	1400
エンジン	—	いすゞAJ-4JJ1XYSA-03 66 kW/1800 min^{-1}(90 PS/1800 rpm) ★69 kW/2000 min^{-1}(94 PS/2000 rpm)
A: 全幅(バックミラー除く)	mm	2500
B: キャブ高さ	mm	2820
C: 本体後端半径	mm	1530
D: 最低地上高	mm	※440
E: 旋回体下端高さ	mm	※860
F: エンジンカバー高さ	mm	※2100
G: 旋回体全幅	mm	2480
H: クローラ全長	mm	3740
I: クローラ全幅	mm	2490
J: タンブラ中心距離	mm	3045
K: 標準シュー幅	mm	500(グローサシュー)
接地圧	kPa(kgf/cm^2)	47 (0.48)
登坂能力	度(%)	10(18)

★印は、H/P モード時です。※寸法は、シューラグ高さを含みません。

作業範囲



項目 ＼ 区分	2段ハイリフトフロント
A；最大作業半径 (mm)	6590
B；最大作業高さ (mm)	11550
C；最大作業半径高さ (mm)	7390
D；最小旋回半径 (mm)	1850